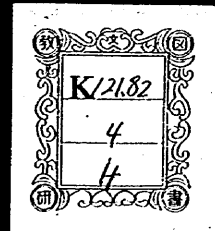


小學作文教本

水野浩編

二下



K121.82

4

4

水野浩編

二卷下

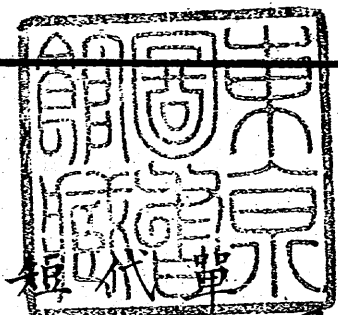
小學作文教本

版權免許

教育書房藏版

No. 6406

小學作文教本卷二下



第二十七課至
第四十三課至
第四十八課至
第四十九課至
第五十三課



小學作文教本

卷二下

目次

小學作文教本卷二下

水野浩編

尋常小學科第二年後期

此ノ期ニ於テハ前期ニ續ギテ單文ヲ連接スル
ノ方法ト代名詞ノ用法トヲ示シ簡單ナル記事
文ヲ作ラシム

短文

第廿七課

花ハ紅ナリ。葉ハ緑ナリ。

花ハ紅にて、葉ハ緑あり。

綿ハヤハラカナリ。綿ハカロキモノナリ。

綿ハやさらかふして、軽きものなり。

第廿八課

半紙ハ白キ色ナリ。スミハクロキ色ナリ。

半紙ハ白き色にて、をみはくろき色なり。

私ノ父ハ三十五サイナリ。私ノ母ハ三十一サイナリ。

私の父を三十五さいにして、母は三十一さいなり。

第廿九課

犬ハカシヨキケモノナリ。犬ハ多人ニナル。

上ノ單文

父ノ花ハキレイナリ。父ノ根ハ食用トナル。

又連接シ

狼ハ深キ山ニ住ムモノナリ。狼タケキタテナリ。

又連接文
ヲ單文ニ
分ケシム

私ハ此ノ學校ノ生徒ニシテ、二年後期生ナリ。

君ノ帽子ハ赤ニテ、私ノ帽子ハ青ナリ。

第三十課

雪 降ル。學校 ヲ 休マズ。

雪 降ル。とも、學校を 休む
まじ。

川 浅シ。ワレハハヒラズ。

川 浅く とも、われを 是
ひらじ。

第卅一課

アタヒ 高シ。帽子ヲ買フ。

あたひ 高くとも、帽子を
買はん。

時 早シ。急ギテ行ケ。

時 早くとも、急ぎて
行け。

第卅二課

池凍るとも、上小乗るふ。

道とほくとも、毎日かよはん。

舟小乗るとも、我は酔はじ。

風つよい。木たふれぞ。

朝ねむい。早く起く。

上ノ連接

文ヲ單文

ニ分ケシ

△

第卅三課

柳 ウメシ。私 ハ スキ
ナリ。

柳 は うまき 故又 私 は
まき なり。

明日ハ 學校ハ 休 ナリ。公園地
ニ 行カン。

明日 は 學校を 休 なる 故に、
公園地 に 行かん。

第卅四課

梅ノ花ハ 香氣ヨシ。人 コレ
ヲ 愛ス。

梅の花は 香氣よきためよ
人おれ を 愛す。

熟セザル クダモノニハ アテラル。
食フ 可ラス。

熟せざる くだものには あてらる。
故又 食ふ 可らば。

第卅五課

私ハ病氣故ニ外へ出デズ。

上ノ連接

太郎ハ勉強故ニヨク書ヲ讀ム。

文ヲ單文

雨降りテ來ラン、傘ヲ持チテ行ケ。

二分ケ又

蒸氣車ハ便利ナリ、人之ニ乗ル。

單文ヲ連

二郎ハヨキ子ナリ。皆二郎ヲ愛ス。

接セシム

第卅六課

家ニ早クカヘラン。人力車ヲ急ガス。

家に早くかへらんため、人力車を急がす。

友ダチヲサソフ。手紙ヲ送レリ。

友だちをさそふ爲に、手紙を送れる。

第卅七課

吾等ハ カシコク ナラン。學問
ニ セイヲ イダス。

吾等 を かしく ならん 爲に、
學問 ヲ せいを いたす。

三吉ハ 怠リタリ。試験ニ 落第
セリ。

三吉は 怠りたる 爲に。試験
に 落第 セリ。

第卅八課

私ハ學校ニ 通ヒシ 爲ニ 讀書 算
術 ナドヲ オボエタリ。
上ノ連接
文ヲ單文

魚ハ 餌ヲ 貪ル 爲ニ 釣ニ カケラル。
二分ケ又
單文ヲ連

太郎ハ 勉強ナル 爲ニ カシコク。
三吉ハ 怠惰ナル 爲ニ オロカナリ。
接セシム

黑板ニ 字ヲ カク。白墨ヲ 持チタリ。

菓子ヲ 夕へ 過ギタリ。病氣ニ ナリタリ。

第卅九課

山ニ行キタリ。川ニ行キ

山ヨ行き、又川に行き

馬車ニ乗リタリ。人力車ニ乗リ

馬車に乗り。又人力車に

第四十課

筆八字ヲカキ、又画ヲカクニ用フ。
土ノ連接
文ヲ單文

兔ハ木ノ芽ヲ食ヒ、又草ヲ食フ。
二分ケ又
單文ヲ連

菊ノ花ニハ黄ナルアリ。菊ノ花ニハ白キアリ。
接セシム

馬ハ人ヲノス。馬ハ車ヲ引ク。

本ヲヨミ多。算術ヲタヒ多。作文ヲ學ビ多

第四十一課

犬ハカシコシ。犬ハヨク恩ヲ
 知ル。犬ハカシコシ。犬ハヨク恩ヲ
 犬はかしくして、且よく
 恩を知る。
 夏ノ日ハ長シ。夏ノ日ハ
 アツシ。
 夏の日は長くして、且
 あつし。

第四十二課

狐ハカウカツニシテ、且オネヤウナリ。
 才春サンハオトナシク、且勉強ナリ。
 太郎ハ飯ヲ喰フ。太郎ハ茶ヲ飲ム。
 ブドウノ味ハ甘シ。ブドウノ味ハ酸シ。
 東京ハヒロシ。東京ハニギヤカナリ。

上ニ記セ
 ル連接文
 ナ分ケ又
 單文ヲ連
 接セシム

第四十三課

太郎ハ足早シ。二郎ハ太郎ニ
追ヒ付クコトデキズ。

太郎ハ足早キ。故、二郎ハ彼ヨ
追ヒ付ク事トモキマズ。

清正ハ強カリキ。敵皆清正ヲ
オソレタリ。

清正は強かり。故、敵皆彼
をおろれたり。

第四十四課

才花ト才春トハヨク似タリ。ヒトハ才花
ト才春トヲキヤウダイナリト思ヘリ。

お花と才春とをよく似たれば。ひと
は彼等をきやうたいと思へり。

西洋人ノカニハ赤シ。日本入ノ
カニハ西洋人ヨリモヨシ。

西洋人のかみは赤くして、日本人の
かみは彼等よりも赤し。

第四十五課

富士ノ山ハ高シ。富士ノ山ノ頂上ニハ四時雪アリ。

富士の山は高くして、其の頂上には四時雪あり。

象ノ體ハ大ナリ。象ノ目ハ小サシ。

象の體は大ふれども、其の目は小さい。

第四十六課

猫ハネズミヲ捕ル。人猫ヲ飼フ。

猫はねずみを捕る。故に、人之を飼ふ。

牡丹ノ花ハ美シ。人牡丹ノ花ヲ賞ス。

牡丹の花は美しきが故に、人之を賞す。

第四十七課

太郎ハ手ニパンヲ持ツ。犬ハ太郎ノアトニツキテ行ク。

上ノ連接文ヲ單文

才花ハ遊ニ出デタリ。母ハ才花ノカヘリヲ待テリ。

二分ケ且單文ヲ連

太郎ト二郎トハ兄弟ナリ。三吉ハ太郎二郎等ト同シ學校ノ生徒ナリ。

接シテ適應セル代

正成父子ハ忠臣ニシテワガ國ノ人ハ彼等ノ名ヲ知ラヌモノナシ。

名詞ヲ入レシム

第四十八課

梅ノ花ハ美シ。梅ノ實ハ食フ可シ。

上ノ連接文ヲ單文

牛肉ハ滋養分多シ。人好ミテ牛肉ヲ食ス。

二分ケ且單文ヲ連

羊ノ肉ハ美味ニシ。其毛ハ織物ニ用フ。

接シテ適應セル代

フランネルハアタカキ故ニ寒中ニハ人多ク之ヲ着ル。

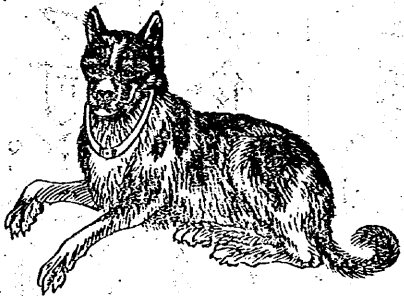
名詞ヲ入レシム

第四十九課

犬

犬ハ家ニ飼フ。
犬ハケモノナリ。
犬ハカドヲ守ル。

犬は家よ
飼ふけものふして、
よくかどを守る
ものなり。



第五十課

うぐひを、

ウグヒスハ小鳥ナリ、
ウグヒスハ早春谷間ヲ出ツ、
ウグヒスハ美シキコトニテナク、
ウグヒスハ人之ヲ愛ス、

うぐひをば小鳥よして、早春谷間
を出で、美しきこゝろにて鳴く
故に、人おれを愛す。

第五十一課

狐は犬よりも少く
小さき けだものふて
口をきと耳とは尖り、
其の性かうかつにして、
晝かくれ夜出でて食
物を求む。

上ノ文ヲ
五句ノ單
文ニ分ケ
シム

第五十二課

牡丹

牡丹ハ其ノ花、
牡丹ハ其ノ花ノ色種々アリ。
牡丹ハ花中ノ王ト稱セ
ラル。

上ノ單文
ヲ連接シ
テ一文ト
爲サシメ
且點線ノ
處ニ言葉
ヲ填メシ
ム

K120.82-4

第五十三課

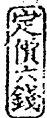
鳥

鳥ハ其ノ色、
鳥ハ人家 近キ所ニスム。
鳥ハ朝 早ク、
鳥ハ夕ニレバ 森ニカヘ
リテ ネムル。

上ノ單文
ヲ連接シ
テ一文ト
爲サシメ
且點線ノ
處ニ言葉
ヲ填メシ
ム

小學作文教本卷二下終

明治二十年十一月十四日版權免許
同 二十年十一月 刻成出版



編者

茨城縣士族

水野 浩

東京府日本橋區本葦屋町五番地寄留

東京府平民

原田庄左衛門

東京府日本橋區松平十五番地

大阪府平民

梅原 龜七

大阪府東區備後甲四丁目十一番地



出版人

免人

